

私の彼は被告人

—京大11月祭模擬裁判—

一人の若者が、交通違反でつかまつた際、警官に暴行を加えたとして逮捕される。

(被告) 「デタラメだ！スピード違反をしたのは、覆面パトカーが挑発してきたからなんだ。暴行だってやっていない。取締りのやり方が汚ないと抗議していたら、2人がかりで、無理やり反則キップに指紋を取ろうとしたから、その腕をふりはらっただけなんだ。」

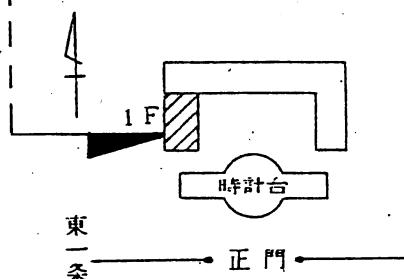
(警官) 「スピード違反をつかまえるのに、挑発なんかやっています。犯人は、私を殴ってけりまでいたんですよ。」

(恋人) 「ええ、その時彼の車に同乗してました。覆面パトカーの挑発は、私もはっきり見ました。それに、第一、彼は殴ったりしてません。」

(検事) 「おい、君、君は取調べの時とは、別のことを行っているじゃないか。いいかい……。」

(恋人) 「あの時は早く帰してほしかったし、それに、検事の人がこわそうな人で……」

錯綜する証言、いらだつ検事、謎が謎を呼び、愛と憎しみが交錯する。そして、事件は意外な全貌を、――



入場無料
於：法経四番大教室
11月21日2:30～

京大法律相談部